

注目の学園ニュース

CJ
ホットピックス

ラスト400mで驚異的なスパートを見せた由水選手。



競技場や沿道の随所に紫の旗が見えるほど、大勢の応援団が選手たちにエールを送りました。小川福岡県知事も駆けつけてくださいました。



Look Back On The Race!

1区 由水沙季(3年)	2年連続区間賞の期待とプレッシャーを感じながらも、期待通りの走りて偉業を達成
2区 清水真帆(3年)	大会前に胃腸炎になるなど体調が万全ではなかったが、粘りの走りて3区へ
3区 古賀清華(2年)	初の都大路の大舞台、緊張もあったが繋ぎの役割を果たし4区へ
4区 植崎夏美(2年)	インターハイも棄権し、この大会に賭けてきた思いで熱走しアンカーへ
5区 山下希望(3年)	一昨年のリベンジと気負いもあったが、力走し16位でゴール

「挑む」をテーマに
走り込み続けた1年間

昨年12月22日に行われた「女子第25回全国高等学校駅伝競走大会」において、本校は1時間10分14秒の記録で16位という結果に終わりました。

1区の由水が2年連続区間賞という圧巻の走り、スタートを切ったにもかかわらず、2区以降レースの流れに乗りきれないまま、力を出し切れずに不本意な結果となりました。昨年の4位から

1

高校

3年連続・通算21回目の出場を果たした
「女子第25回・全国高等学校駅伝競走大会」
（由水沙季選手(1区)が2年連続の区間賞）

大幅に順位を下げ、入賞すらできなかった結果に悔しさで一杯です。

昨年度の大会後、今年度のテーマを「挑む」と掲げ、選手たちは「日本一」を目標に1年間、毎日黙々と走り込みを続けました。しかしながら、故障者が多く一番練習しなければならなかった夏場の走りこみが十分にできなかったこと、大会に調子を上げられなかったこと等々、選手たちの個々の力を出し切れなかったのは私の責任です。この反省すべき点を今後の課題として、今年の都大路で必ず結果を出し、応援してください多くの方々に恩返しをしたいと思います。

結果には満足できませんでしたが、毎日5時50分からの朝練習、放課後の本練習、年間31日の強化合宿、春休み／5月の連休／夏休み／秋休みと、選手たちが1年間「駅伝」に全てを賭けて懸命に努力してきた過程は讃えていただきたいと思います。

大会後行われたリーガロイヤルホテルでの報告会の選手の手挨拶の中で、全員が感謝という言葉を伝えてくれたように、私たちを支えてくださった多くの皆様方に選手一同、感謝致しております。

3年生主体のチームでしたが、今は1・2年生の新チームに変わり、新たなスタートを切っています。先輩たちが築いてくれた伝統を継承し、「強い筑女」を復活できるようにこれからも精進し頑張っていきますので、今後とも陸上部をご支援いただきますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、遠方より応援に来ていただいた、後援会、精華会、学校関係の皆様、本校の生徒たち、保護者、OG、その他たくさんの方々の皆様、本当にありがとうございます。準備や当日のお世話をいただいた先生方、事務の皆様方ありがとうございます。心より御礼申し上げます。
〔高等学校 陸上部監督／岩元雅輝〕

2

大学・短期大学部

大学・短期大学部では
多彩な海外留学・研修制度
を展開中！

大学・短期大学部では、毎年100名程が海外留学や研修に参加しています。今年も新たにフィリピン・セブ島の3週間マンツーマン英語研修を開催するなど、学生の様々なニーズに応じた幅広い研修プランを用意しています。さらに、ニューヨーク州立大学と西シドニー大学から短期留学生を受け入れ、国際交流の機会を増やしています。



留学した大学のロゴ入りトレーナーを着て、映像や写真で現地の様子を報告。

2013 STUDY
ABROAD FAIR
(留学・研修報告会)を開催！
「行ってみたらホントはこんなところだった!」

昨年11月、これらの留学・研修に参加した学生たちが、体験談を発表する報告会を開催しました。英語圏長期留学(カナダ、オーストラリア)、中国語圏長期留学(中国)、海外短期研修(インド、ニュージーランド、フィリピン、中国)、海外学生交流(ニューヨーク州立大学、西シドニー大学)のグループごとにパネルやパワーポイントを作成し、海外研修に興味がある学生たちにプレゼンテーションを行いました。「1日6時間のマンツーマンレッスンで、英語力アップを実感した」「研修を通して、自分がしたいことを見つけることができた」など、海外で過ごした経験を生き生きと、そして自信に満ちた表情で話していました。海外研修に興味がある方は、ぜひ国際交流センターをのぞいてみてください。新たな世界と自分に出会う第一歩を踏み出してみよう。